

2022年度

事業報告書

2022年1月1日から

2022年12月31日まで

公益財団法人 世界こども財団

I 被災地の子どもたちや青少年への支援事業

1 方針

震災から 10 年を経て変わりつつある被災地のニーズを汲み取りながら、相馬市・南相馬市を中心に福島県浜通りの子どもたちや青少年の心身の健康を維持するためのカウンセリングやスポーツ交流を他の支援者とともに協働して実施する。

また、東日本大震災以外にも、自然災害で被災した地域への緊急支援も可能な限り実施していく。

2 支援事業の概要

(1) カウンセリング

- ・ 復興に向け被災地は大きく変貌しようとしている。その環境変化の中で心理的に不安定になる小中高校の児童、生徒、教員および保護者等が見られることから、彼らを対象としたカウンセリングを実施して欲しい旨要請を受けた。本要請は、世界こども財団の活動趣旨に一致することから、他の支援者（相馬市・南相馬市教育委員会、NPO 法人相馬フオロアーチーム、NPO 法人星槎教育研究所および学校法人国際学園）とともに協働し、2011年度より福島県相馬市・南相馬市において継続的に支援を実施、現在は南相馬市の小中学校にて活動を継続している。
- ・ 2022年度においても南相馬市から継続の要請を受け、支援を継続した。
- ・ 世界こども財団は、本カウンセリングに関する、支援対象者について学校および教育委員会との調整、カウンセリングの実施に関する企画・コーディネートおよび支援機関等への活動支援（移動・宿泊等の支援）および一部経費負担等の支援活動を行った。

カウンセリングの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
カウンセリング	福島県南相馬市	市内全ての中学校および特定の小学校の児童・生徒・教員・保護者	7名体制、年間で24回（月2日×12ヶ月）実施。一部の学校は年間で48回実施（月4日×12ヶ月）
備考	【支援者（機関）】 南相馬市教育委員会、NPO 法人 星槎教育研究所、学校法人 国際学園 【実績】 ・ 2011年度より継続実施 ・ 2022年度までの南相馬市内でのカウンセリング累計数は、 生徒：5,171件、教員：581件、保護者676件		

(2) スポーツ交流

- ・ 福島県相馬市において子どもたちを元気にするため、子どもサッカースクールおよびサッカー指導講習会の開催についての要請を受け、世界こども財団の活動の趣旨に一致することから他の支援者（神奈川県サッカー協会、相馬市教育委員会、NPO 法人ドリームサッカー相馬、学生ボランティア、学校法人国際学園）とともに協働して実施している。
- ・ 新型コロナウイルスの感染拡大を受け、2021年1月は開催が中止となったため、2022年1月は2年ぶりの開催となった
- ・ 世界こども財団は、事前準備として本スポーツ交流等に関する参加者についての教育委員会との調整、開催実施に関する企画・コーディネート、支援機関等の活動支援（移動・宿泊等支援）および一部経費負担等の支援活動を行った。
- ・ 直前に新型コロナウイルスの感染数が急激に拡大したこともあり、首都圏から職員が相馬に行く

- ことは避け、現地関係者が主体となって大会を開催した。
- 当日は相馬市のこどもたちを中心に7チーム82名が参加した。

スポーツ交流の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程等
・子どもサッカー大会	福島県相馬市	・小中学校の児童・生徒 (82名参加)	2022年 1月15日
備 考	【協働者（機関）】 神奈川県サッカー協会、相馬市教育委員会、NPO 法人ドリームサッカー相馬、学校法人 国際学園 【実績】 2011年度より継続実施		

II 子どもたちや青少年の教育・保健衛生・医療環境の向上のための支援事業

1 方針

発展途上国の子どもたちや青少年の教育・保健衛生・医療環境を改善するべく、現地の各関係機関と連携し活動を実施する。また、スポーツを通じた支援も行い現地の子どもたちや青少年の育成に加え、支援国のスポーツ文化の振興・発展に寄与する。エリトリア国、ブータン王国、ミャンマー連邦共和国を中心に支援を実施する。

2 支援事業の概要

- 2020年以降、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、当財団職員が現地に赴いての活動、また現地との密接なやり取りを要するプログラムの継続に困難が生じており、2022年度も同様であった。今後は海外への渡航含め状況の改善に応じて、中断していたプログラムの見直し、整理を行っていく。なお、ミャンマー連邦共和国への支援は2022年3月のスポーツ留学生（「III 子どもたちや青少年の国際相互理解の促進と健全な育成のための支援事業」を参照）のプログラム修了を持って一旦の区切りとし、次年度は実施しない方向。
- エリトリア国およびブータン王国において現在継続中、または懸案となっているプログラムおよびその経緯は下記の通りであり、引き続き確認を行っている。
- 2022年5月に留学生来日に合わせエリトリアより陸上競技連盟事務局長を招聘、今後に向けての協議を行なった。また、2022年5月に職員1名がブータン王国に出張し、現地の状況確認および関係各者との協議を行なった。
- エリトリア国

①Unicef エリトリアとの協働による現地学校およびコミュニティ支援	
支援対象地区	支援対象者
エリトリア国	Unicef 選定のモデル校および周辺コミュニティ
経 緯	2018年1月のエリトリア国訪問時に、Unicef からの依頼を受け協議を実施。Unicef エリトリアが計画している現地小学校を拠点とした幼児期教育、水と衛生、スクールクラブ活動の統合プロジェクトにおいて、スポーツの要素も含め世界こども財団との協働の要請を受けた。その後、2019年10月に第一次予算を送金し、Unicef 選定のモデル校にてプログラムが開始したものの、2020年以降、現地Unicef 事務所の活動停止により、ペンディングとなっている。
備 考	【協働者】 Unicef エリトリア

② スポーツアカデミーの運営支援	
支援対象地区	支援対象者
エリトリア国	首都アスマラを中心とする青少年
経緯	2017年11月、エリトリア陸上連盟の副会長来日時に、これから開設するエリトリアスポーツアカデミーへの運営支援、および関連施設の補修への支援依頼があった。このアカデミーの開設は、エリトリアの子どもたち、青少年に安全・安心な環境で教育を展開することを目的とする。関連施設の補修は、エリトリア唯一の陸上競技トラックの破損がひどくその修繕支援を2018年度に実施した。新型コロナウイルスの影響で2020年以降は具体的な支援に至っていないが、2021年7月、東京オリンピック大会期間中に来日した同国文化・スポーツ庁長官とは東京で会議を持ち、状況の確認を行った。
備考	【協働者（機関）】エリトリア国文化スポーツ庁、同陸上競技連盟

③ エリトリアでのスポーツ大会開催およびアスリートの国際大会参加支援	
支援対象地区	支援対象者
エリトリア国	当該国アスリートおよび関係者
経緯	東京2020オリンピック・パラリンピック大会に向けアスリートの日本への招聘やエリトリア国内でのスポーツ大会開催支援等を行ってきた。今後の方針については文化スポーツ庁および関係各所と協議の上検討。
備考	【協働者（機関）】 エリトリア国文化スポーツ庁、同オリンピック委員会、同各スポーツ競技連盟、学校法人 国際学園 【実績】 2019年度 アスマラマラソン開催支援 2020年度 東アフリカハーフマラソン出場支援 2021年度 オリンピック・パラリンピック出場支援

④ 障がいを持つ人へのスポーツを通じた支援	
支援対象地区	支援対象者
エリトリア国	当該国アスリートおよび関係者
経緯	東京2020オリンピック・パラリンピック大会へ向け、同国初のパラリンピック大会出場を目指し、アスリート1名の支援を行ったが、同大会への参加は叶わなかった。2021年に同国パラリンピック委員会が正式認可されたことから、今後について現地のニーズを把握した上で検討。
備考	【協働者（機関）】 エリトリア国文化スポーツ庁、同パラリンピック委員会、同各スポーツ競技連盟 【実績】 2020年度 ロサンゼルスマラソン出場支援（車いすマラソン）

・ ブータン王国

① スポーツスクールの運営支援	
支援対象地区	支援対象者
ブータン王国	公立・私立選定協力校
経緯	2019年10月、ブータンオリンピック委員会、並びに教育省との共同プロジェクトチームより、ブータン王国にて開校予定のスポーツスクールへの運営支援、および星槎グループ並びに日本国内公私立高校への視察・調査における協力および支援の依頼があった。このスポーツスクール開設の主な目的は、アスリート達が特定の競技に早期から取り組み、日常的に練習が可能となることによる国際競技力向上および安定維持である。2020年度以降、新型コロナウイルスの感染拡大により、スポーツスクールの開校予定も延期を余儀なくされた。同国ブータンオリンピック委員会と引き続き協議の上支援について検討。
備考	【協働者（機関）】 ブータン王国教育省、同オリンピック委員会、学校法人 国際学園

② ブータンでのスポーツ大会開催およびアスリートの国際大会参加支援	
支援対象地区	支援対象者
ブータン王国	当该国アスリートおよび関係者
経緯	東京2020オリンピック・パラリンピック大会に向けアスリートの日本への招聘やブータン国内でのスポーツ大会開催支援等を行ってきた。今後の方針については同国オリンピック委員会および関係各所と協議の上検討。
備考	【協働者（機関）】 ブータンオリンピック委員会、同各スポーツ競技連盟、学校法人 国際学園 【実績】 2019年度 ツアー・オブ・ドラゴン（自転車競技大会）開催支援 ブータン国際マラソン開催支援 2020年度 ブータン・日本リモートアーチェリー大会開催 ブータン・日本リモートインドアアーチェリー大会開催 ライフル射撃用具寄贈 2021年度 ブータン国際マラソン開催支援 オリンピックデー開催支援 東京オリンピック大会事前キャンプ受け入れ・大会参加支援

③ 障がいを持つ人へのスポーツを通じた支援	
支援対象地区	支援対象者
ブータン王国	当该国において身体および知的障がいを持つアスリート
経緯	東京2020オリンピック・パラリンピック大会へ向け、パラリンピック委員会の設立、アスリート育成、事前キャンプ受け入れ等の支援を継続してきた。パラアスリート3名がブータン史上初のパラリンピック大会出場を果たし、東京大会が無事に終了したことから、今後の支援については現地のニーズを把握した上で検討。
備考	【協働者（機関）】 ブータンパラリンピック委員会、同各スポーツ競技連盟、学校法人国際学園 【実績】 2019年度 ブータン・パラリンピック・フェスティバル開催支援 福祉車両2台の寄贈、バラスポーツ用品寄贈 2021年度 東京パラリンピック大会事前キャンプ受け入れ・大会参加支援

Ⅲ 子どもたちや青少年の国際相互理解の促進と健全な育成のための支援事業

1 方針

スポーツ交流を通じ、エリトリア国、ブータン王国、ミャンマー連邦共和国との国際相互理解を図るため、当该国より陸上競技をはじめ各スポーツにおいて才能のある高校生・大学生の留学受け入れを他の支援者とともに協働して実施する。また、異文化理解・友好関係の構築を目的とするイベントの開催、当该国からの学生の短期受け入れも実施する。

2 支援事業の概要

(1) エリトリア留学生（高校生・大学生）の受け入れ

- ・ エリトリア国より、陸上競技およびバスケットボールに才能があり、かつ学習意欲の高い高校生を日本へ留学させ、最新のスポーツ科学を取入れたトレーニングを提供することにより、その才能を伸ばす。それとともに日本の後期中等教育を受けさせることにより、日本・エリトリア両国

の友好に貢献できる人材を養成する。陸上においては、オリンピック出場を目指す選手として育成をする。一方、留学生がクラスに入ることにより、日本人生徒は外国、特にアフリカをより身近に実感でき、国際的視野が広がることが期待できる。

- ・ 2017年より開始し、これまでに高校生・大学生合計12名を受け入れている。
- ・ 2022年度3月に、2名が高校を卒業した。1名は帰国し、1名は星槎道都大学に進学、支援を継続。
- ・ 2022年度5月に、エリトリアスポーツ奨学生6名（陸上競技高校生男女4名＋バスケットボール競技男子2名）の受け入れを開始した。新型コロナウイルスの感染拡大の影響により2年遅れでの入国となったが、渡航前から受け入れ予定校と連携し通信教育の形でレポート等の課題を提供、待機中も現地で取り組みを継続し、2022年度より日本での1年間のプログラムとして招聘を行なった。

留学受け入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
留学	エリトリア国 文化スポーツ庁 陸上競技連盟 バスケットボール連盟	(継続) 大学生3名 (新規) 高校生6名	2017年より継続
備考	<p>【受入れ校】 学校法人 国際学園 星槎国際高校湘南、星槎大学、学校法人 北海道星槎学園 星槎道都大学</p> <p>【協働者（機関）】 エリトリア国文化スポーツ庁、同オリンピック委員会および各競技連盟、 学校法人 国際学園、公益財団法人 日本陸上競技連盟、公益財団法人 日本オリンピック委員会</p> <p>【実績】 2017年度 高校・大学留学生の受け入れを開始。 2019年度 1名が高校を卒業し星槎大学へ進学。 2021年度 1名が高校を卒業し星槎道都大学へ進学。 星槎国際高校湘南に2名、星槎道都大学に1名、星槎大学に1名が在籍。 1名が9月に星槎道都大学を卒業、11月より星槎グループ職員として勤務を開始。 2022年度 2名が高校を卒業し、うち1名が星槎道都大学へ進学、1名が帰国 6名を星槎国際高等学校湘南にて新規受け入れ（1年間のプログラム）</p>		

(2) ブータン留学生（高校生・大学生）の受け入れ

- ・ ブータン王国より、陸上・アーチェリー・射撃・柔道に才能があり、かつ学習意欲の高い高校生・大学生を日本へ留学生として受け入れる。優れたトレーニング環境を提供することにより、その才能を伸ばす。それとともに日本の後期中等教育を受けさせることにより、日本・ブータン両国の友好に貢献できる人材を育成する。いずれの競技においても、オリンピック出場を目指す選手として育成をする。将来的には、日本で取得した学歴をもとに世界に羽ばたく人材を育成する。選定については、現地オリンピック委員会との協議の上行う。
- ・ 2022年度は、在籍中の星槎大学1名（陸上短距離）、星槎道都大学2名（柔道）の受け入れを継続した。

留学受け入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
留学	ブータン (MoU 締結後ブータンオリンピック委員会と協議の上決定)	(継続) 大学生3名	・2018年より継続
備考	<p>【受入れ校】 学校法人 国際学園 星槎国際湘南、星槎大学、学校法人 北海道星槎学園 星槎道都大学</p> <p>【協働者（機関）】 ブータンオリンピック委員会および各競技連盟、学校法人 国際学園、学校法人 北海道星槎学園、公益財団法人日本陸上競技連盟、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益社団法人全日本アーチェリー連盟、公益財団法人全日本柔道連盟、公益財団法人全日本空手道連盟、公益財団法人日本卓球協会、公益財団法人日本水泳連盟等</p> <p>【実績】 2018年度 陸上1名・アーチェリー2名、星槎国際湘南で受け入れ開始。 2019年度 星槎国際湘南から1名卒業、星槎大学へ進学。 新規柔道2名、星槎道都大学で受け入れ開始。 2020年度 星槎国際湘南2名卒業、帰国。</p>		

(3) ミャンマー留学生（高校生）の受け入れ

- ・2018年4月にミャンマーオリンピック委員会と2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の事前キャンプ協定を締結したことによって、エリトリア、ブータン同様に支援事業を実施。2019年より空手競技で高校留学生の受け入れを開始した。
- ・2020年に受け入れを決定し、新型コロナウイルスの感染拡大、また同国の政情変化による影響で待機となっていた空手競技の高校留学生の来日へ向けた調整を進めたが、2022年4月に同国オリンピック委員会より今回の派遣は取りやめる旨通達があった。
- ・在籍していた空手競技留学生3名は3月に無事に高校を卒業し、帰国した。
- ・上記によりミャンマー留学生受け入れ支援に区切りがついたことから、ミャンマー関連の支援については一旦終了とし、2023年度は実施しない予定。

留学受け入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
留学	ミャンマー (保健スポーツ省・オリンピック委員会、各競技連盟等)	(継続) 高校生3名	・2019年より継続 ・2022年3月、対象者3名の卒業・帰国をもって完了
備考	<p>【受入れ校】 学校法人 国際学園 星槎国際湘南、学校法人 北海道星槎学園 星槎道都大学</p> <p>【協働者（機関）】 ミャンマー保健スポーツ省、同オリンピック委員会および各競技連盟、学校法人国際学園、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人全日本空手道連盟、神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町</p> <p>【実績】 2019年度 空手3名の高校生受け入れを開始。 2022年度 上記3名が高校を卒業、帰国。</p>		

(4) Seisa Africa Asia Bridge (SAAB)の開催

- 世界こども財団、一般社団法人星槎グループ、学校法人国際学園、学校法人星槎、および SEISA Africa Asia Bridge 実行委員会共催の上記イベントを今年度も継続して開催した。目的は、アフリカ、アジアの国々、太平洋の島国を知り、お互いを認め合い、そして、つながる“架け橋”となることである。単にイベントではなく、日常の教育活動に世界中の人々が笑顔で暮らせる共生社会の実現に向け、一人ひとりが出来ることから考え、お互いの意見を発表し、さらに発展することを行っている。
- 2022年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止を徹底しつつ、3年ぶりに多くの一般来場者を迎えての開催となった。同時に過去2年の経験を活かし、全プログラムをオンライン7チャンネルで配信した。アフリカの大使館関係15か国を含む31か国、オンライン参加を含めて国内外で約40,000人が参加した。

SAAB 開催支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	備考
SAAB2022の開催	国内およびアフリカ、アジアを中心とした国々	来場者、視聴者、および参加生徒等	11月12日
備考	<p>【協働者（機関）】 学校法人 国際学園、一般社団法人 星槎グループ、JICA 横浜、UNDP（国連開発計画）、アフリカ各国の駐日大使館 他</p> <p>【後援（機関）】 外務省、文部科学省、神奈川県、横浜市、小田原市、芦別市、箱根町、大磯町、神奈川県教育委員会、横浜市国際局、横浜市教育委員会、小田原市教育委員会、芦別市教育委員会、JICA 横浜、ヨコハマSDGs デザインセンター</p> <p>【実績】 2015年より毎年開催</p>		

(5) 国際理解促進のための教育機関での出張授業プログラム・交流プログラム

- 2022年度より、新規事業として、世界こども財団職員を高校に定期的に派遣し、国際理解教育を支援する取り組みを「出張授業」として開始した。本取り組みでは、まずは学校法人国際学園の2学校（星槎国際高等学校八王子学習センター、同立川学習センター）において、ブータン王国のプログラムを担当する職員により、ブータンをテーマとして文化を学び、特に食文化に着目して生徒が主体となってキッチンカーを運営するゼミ等を実施した。また、生徒の国際貢献を促すべく、生徒会と連携しての募金活動や、不要品回収の活動等を実施した。現在のプログラムは2023年3月まで継続し、以降についても学校側のニーズを踏まえて継続していく予定。
- また、アフリカ・エリトリア国出身で当財団のスポーツ奨学生プログラムを卒業したのち、職員となった者を中心にエリトリアの文化紹介・交流プログラムを開始し、2022年10月に浜松にて現地の商店街と高等学校（星槎国際高校浜松学習センター）がコラボレーションして行った文化祭に出展したほか、継続プログラムとして冬休みに上記職員による特別授業を行い、高校生に対しエリトリアの文化についての講義と、エリトリア料理の試作も行なった。

出張授業・地域交流プログラムの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
出張授業・ 地域交流	国内	生徒および学校関係者、 地域住民	<ul style="list-style-type: none"> ・出張授業 2022年度より継続 ・文化祭出展（浜松） 2022年10月22日 ・特別授業（浜松） 2022年12月21日
備 考	【協働者（機関）】 一般社団法人 星槎グループ、学校法人 国際学園、学校法人 星槎		

IV 子どもたちや青少年の自立支援事業

1 方針

開発途上国の子どもたち、その中でも特に弱い立場にいる孤児の自立を支援するため、他の支援者とともに支援活動を実施する。

2 支援事業の概要

- (1) バングラデシュ、アグラサーラ孤児院に支援事業を実施、孤児達が将来自立できるようにする。
- ・ 株式会社矢部プロカッティングの海外生産拠点設立のニーズと、アグラサーラ孤児院のニーズを結びつけ、縫製工場建設を進めてきた。職業訓練をすすめ、当該工場での就業機会提供、孤児院自立運営に寄与することを目的として、世界子ども財団は両者の窓口として継続的に取り組んできた。
 - ・ 工場の建設含め準備は完了していたものの、2020年度から2021年度にかけ、バングラデシュの縫製業組合からのライセンス発行等の遅れ、さらに新型コロナウイルスによるロックダウンなどが追い打ちとなり、三者での協議の結果、現地法人におけるビジネスとしての縫製業の継続は困難と判断した。2021年度後半から2022年度においては、現地法人の閉鎖に向けて手続きを開始、世界子ども財団は両者の窓口としてサポートを行った。

アグラサーラ孤児院支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	備 考
孤児縫製職業訓練	アグラサーラ孤児院	孤児院の子どもたち	縫製業は閉鎖の方向
備 考	【協働者（機関）】 アグラサーラ孤児院、株式会社矢部プロカッティング、学校法人国際学園		